

## 平成22年度専修大学社会体育研究所研修会情報交換会より

福岡大学スポーツ科学部における  
カレッジスポーツ強化の取組み

乾 真寛（福岡大学スポーツ科学部）

近年、大学による地域貢献や産官学の連携の重要性が示されるようになり（文部科学白書、他）、多くの大学で様々な事業やプログラムが展開・推進されている。福岡大学ではその地域性を活かし、福岡県や福岡市と連携した地域貢献活動や産官学連携プログラムを展開している。特にスポーツ科学部を中心としたスポーツによる地域貢献活動や産官学が連携したアスリートの強化・育成プログラムは、他の体育系大学に先駆けて実施した経緯もあり、成果が上がりつつある。

本年度においては、専修大学社会体育研究所の働きかけのもと、一連の強化・育成プログラムに関する合同研修会を開催するに至った。情報交換会では「トップアスリートの強化支援について」、「大学（学部）と地域との連携について」、「大学（学部）と企業との連携について」をテーマとしてディスカッションが行われた。その主な内容について紹介する。

## 【研修会参加者】

**専修大学社会体育研究所：**佐藤雅幸教授、前嶋孝教授、吉田清司教授、佐竹弘靖教授、佐藤満教授、飯田義明教授、久木留毅准教授、齋藤美准教授、渡辺英次准教授、時任真一郎准教授

**福岡大学：**田口正公教授（前学部長）、乾真寛教授、田中守教授、田口晴康教授、田場昭一郎講師、石塚利光助教、小牟礼育夫准教授、桧垣靖樹教授、米沢利広教授、藤井雅人准教授、築山泰典准教授、渡辺正和助教、田原亮二助教、今村律子助教、小清水孝子准教授、吉澤新（福岡県立スポーツ科学情報センター）

## 福岡大学におけるトップアスリートの強化支援より

福岡大学は9学部31学科からなる九州でも有数の私立大学である。学生数は約20,000人であり、そのうち課外教育活動に8,000名が参加している。スポーツ科学部は昭和44年に創設された体育科学部を前身にしており、平成10年にスポーツ科学部に改組され、スポーツ科学科

（定員210名）と健康運動科学科（定員70名）が設置された。福岡大学には42の体育部と1同好会が活動しており、スポーツ科学部の学生の多くが体育部に参加をしている。大学全体としてのスポーツ特別推薦枠は、医学部と薬学部を除く8学部で実施されており、全学で68名程度の枠を有している。AO入試制度でもスポーツにて自己推薦してくる学生がおり、そこで35名が入学している。また、スポーツ科学部A方式推薦として115名が入学しており、体育部の主要メンバーとして活躍している。

体育学部からの時代を含め、これまでにオリンピックや世界選手権に出場する選手はみられたが、それらの多くは大学の強化システムではなく各クラブの努力や個人の力によるものであった。しかし、近年になってこの状況を打開しようと、平成17年度には大学独自のスポーツ強化策として学長を強化委員長に据えた「スポーツ強化機構」が設立された。当機構については大学の事業計画に明記され、

「本学では全人教育を推進するため正課授業と同様の正課外教育を重視している。その一つであるスポーツでの華々しい活躍は、大学全体にもたらす帰属意識の醸成や求心力の高揚に与える効果が大い。そこで従来のやり方が硬直化しているという指摘を謙虚に受け止め、以下に強化策の再構築を提案するものである」という文言のもとに陸上、柔道、硬式野球、サッカーの4部を特定スポーツとした特別強化策が明示された（図1）。

## 2005年「スポーツ強化機構」設立

学長が強化委員長を務める  
特定スポーツの特別強化策を明示

陸上競技部  
柔道部  
硬式野球部  
サッカー部

## A：最重要強化種目（4種目）

- ・強化援助金 4部に各500万円／年度
- ・強化専任監督の採用（4名）  
硬式野球、柔道（男子）、柔道（女子）、陸上長距離（女子）
- ・推薦人数枠の拡大 学費減免特待生枠、優先配分
- ・同窓会組織、社団法人有信会からの強化費援助（100～250万）

## B：重点種目（14種目）

## C：準強化種目（7種目）

## D：その他

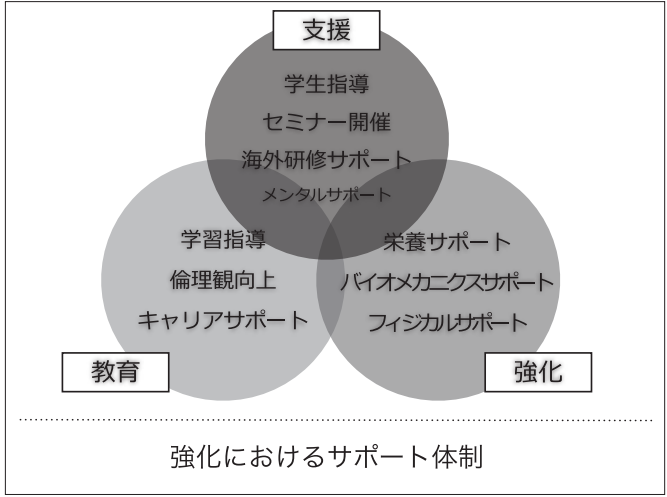
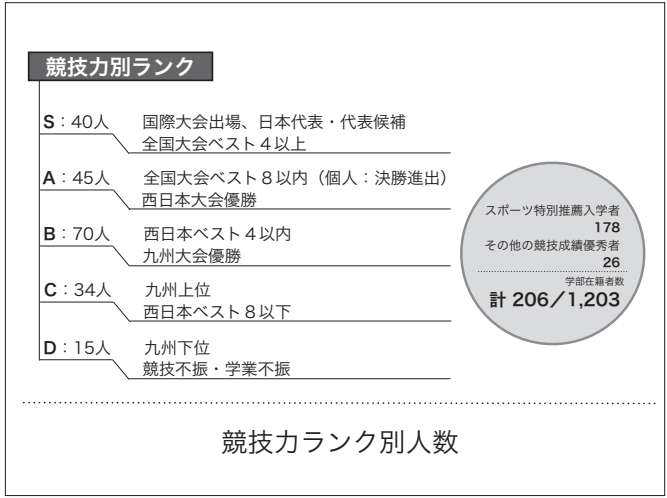
## 福岡大学の独自スポーツ強化策

その後、平成20年度から「福岡大学の『特色ある教育』プロジェクト」として「トップアスリート強化・支援のための実践教育プログラム」が立ち上がり、現在もその制度のもと強化策を進めている。このプログラムは、「国内外トップレベルの著名な外部講師を招聘し、継続的な動機付けと明確な目標設定を行なわせ、より強度な競技レベルへのチ



チャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる教育である。さらに、スポーツを通じて海外で研修するチャンスを与え、国際的視点で活躍できるスケールの大きな真のトップアスリートを養成する」ことが目標とされている。

このプログラムの特徴は、強化・支援サポートのターゲットを絞っているところである。スポーツ科学部に在籍している学生1,203名のうち、204名を対象としており、その204名もAからDのランクに分け（図2）、それぞれのランクに応じた「教育」、「強化」、「支援」の3つのカテゴリからなるサポートを行っている。サポート内容は、コンディショニング記録ファイルを用いたコンディショニングサポート、独自シートを用いた目標設定サポート、栄養とメンタルのサポートセミナーの開催、トップアスリートやエリートコーチを招いた年10回のセミナーの開催、研修補助金のあるスポーツ海外研修への派遣（図3）等であり、「少しでもアスリートの近くにいること」を目標としている。この強化・支援プログラムによって、オリンピックや世界大会、ワールドカップ等に国



際大会に出場して活躍するアスリートが生まれるようになっている。

これら一連の取り組みは、いくつかの課題が挙げられている。その一つは「スポーツ強化ビジョンの一本化と共通理解」である。制度立ち上げ当初から、大学入試制度との連携不足や資金面の整備が進んでいなかった点は否めない。また、各体育部の強化目標にバラツキがあったことから、取り組みを進めて行く上で全体の足並みが揃わなかった場面もみられた。また、「重点強化種目とその他の種目との共存」も課題となっ



スポーツ科学部は昭和44年に創設された体育科学部を前身にしており、平成10年にスポーツ科学部に改組された



企業と連携して最新の人工芝を使って作られたサッカーグラウンド

た。重点強化に指名された4種目とそれ以外の競技種目との温度差も現れるようになった。これらの点については、来年度から改善する方策を打ち出している。一方、「指導スタッフ、現場主義の体制づくり」も検討すべき懸案事項である。強化には資金面の援助のみならず、指導スタッフ、サポートスタッフの充実が必要であるが、現場の立場から見ると援助が乏しい現状がある。開始当初からこれまでは、資金を各クラブに援助するだけの「バラマキ型」に近い強化であったが、今後は将来を見据えた「プログラム優先型」のシステムを作り上げる必要があるだろう。

## 福岡大学サッカー部の強化活動

本年の福岡大学サッカー部においては、2010広州アジア大会のサッカー競技で得点王となった永井謙佑が大きな話題となった。これまでも坪井慶介選手、黒部光昭選手、田代有三選手を日本代表選手として輩出し、数年前から大学サッカーの強豪校として位置づけられるようになっている。現在のメンバーは男子125名女子20～25名（平成22年度）で構成されている。

平成5年の日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）の発足後、各チームにはユース、ジュニアユースなどの育成チームが作られ、エリート選手の育成が図られてきた。その一方、大学サッカーからはJリーガーや日本代表選手は育たなくなるとの懸念があったが、福岡大学サッカー部



では、大学や企業、地域と連携した「福岡大学サッカー・ビジョン」をもとに遅咲きの選手をみつけ大学で伸ばすことを目標として強化に取り組む、多くの実績を挙げてきている。

## 福岡大学におけるサッカー・ビジョン

大学の運動部を強化する場合、運動部の指導者と選手、OB だけで取り組むには限界があると考えていた。そこで、平成17年の「スポーツ強化機構」設立を機会に、新たなビジョンを提案した。その核となったのが「3C 構想」である。3C 構想とは、Company（企業）、College（大学）、Community（地域）が一体となって強化に取り組む構想であり、福岡大学とその地域を結びつけ、そこに企業から資金を提供してもらえるよう考えた。加えて、このビジョンにおいては日本オリンピック委員会（JOC）や財団法人日本サッカー協会（JFA）から援助が得られるよう、JOC の様々なプロジェクトや JFA が進める2005年宣言のロードマップの方針と、当サッカー部の強化の方向性が沿うような計画を立案した。これまでに、福岡で行われる数々の公的スポーツイベントや同地区で行われる JFA のイベントに学生が数多く参加することができている。このような大学の授業外での経験は、学生自身の社会的成長に大きな影響を与えているものと考えている。また、大学の「産学官連携センター（平成18年4月）」が同時期に立ち上がったことも利となり、現在は仮設ではあるが、企業と連携をして最新の人工芝を使ったサッカーグラウンドを安価で作ることができた。そこでは、大学の地域貢献の一つとして、週末には数百名の子どもが集まるアビスパ福岡と連携したサッカー教室などが展開されている。

組織的強化を進める上で注目しなければならないのは、関係各所の方向性を見極めることが必要である。大学本部が考えるスポーツ強化の方向性、その中で立ち上がってきた「スポーツ強化機構」、スポーツ科学部としての構想、地域が大学に期待していること、などの情報を得ることが重要であり、さらにそれらを一元化してそれぞれの組織・機関とネットワークを築き、その中でサッカー部が将来的にどのような役割を果たしていくのかを考える必要がある。各組織や機関、地域が有機的に結びつく中でサッカー部の活動が展開されることによるメリットは極めて大きい。その連携は、サッカー部の強化環境の整備に繋がることはもちろん、その環境のなかで学生が活動することは、大学だけでは学ぶことができない社会的教育環境も得ることができると考えている。



最新設備のメディカルフィットネスセンター

## 大学で伸びる選手・遅咲きの条件

大学のサッカー部を指導するとともに、ユニバーシアードの日本代表チームの監督を勤めてきた経験から、大学以降で伸びてくる、いわゆる遅咲きの選手には、TOPS という頭文字で示すことのできる条件があることがわかった（図4）。T は Trainability であり、選手をスカウトする際には、トレーニングによって変わっていく力があるのか、余地を残しているのかを精査している。O は Open Mind である。人の話が聞けない選手は、“自己流”に留まり、“一流”にはなれないと考えている。心を開き、素直に指導者の指導に耳を傾ける能力が必要である。P は Personality であり、それは3つのIで説明できる。一つは Independence（自立心）を強く持っていること、二つ目は Intelligence（知性）を持っていることである。サッカーに限らず、授業やセミナーに知的な興味をもって参加すること、必要な情報を積極的に取りにいくような能力も重要である。三つめは Insight（洞察力）であり、実はこれは最も重要と考えている。自分は何のポジションであれば評価してもらえるのか、どの点がアピールできるのかを考えていけることが、結果として自分の能力を伸ばすことに繋がっていくことになる。S は Speciality である。他者が持たない絶対的特徴や武器を持っていることが条件である。身長が高い、足が速い、ジャンプ力があるといった、他者にはない突出した長所をもつ選手を見つけることが大切と考えて

### T : Trainability

トレーニングによって変わっていく力、余地を残している

### O : Open Mind

人の話や、アドバイスを素直に聞き入れる力

### P : Personality - 3I

Independence	(自立心)
Intelligence	(知性)
Insight	(洞察力、知恵)

### S : Speciality

絶対的な特徴、武器を持っている

大学で伸びる選手・遅咲きの条件（TOPS）



スポーツ科学部設置の「ヒューマンカロリーメーター」

いる。長所を生かし、それ以外は少なくとも“人並み”にすることで、実際のゲームでは相手に勝利することができると考えている。

平成17年から始まった組織的強化によって、大学開学75周年の節目に大学選手権で初優勝を果たすことができた。また、卒業生の中から7名がJリーグに進んでおり、レギュラーに定着したという実績も挙げている。更に南アフリカサッカーワールドカップの帯同メンバーとして、学生から唯一永井謙佑選手が選ばれた。福岡大学サッカー部における強化の取り組みは、カレッジスポーツ強化の新たなモデルとなるものであろう。

## 福岡大学スポーツ科学部と地域、産官学との連携

福岡大学は、教育研究の理念として「人材教育と人間教育」、「学部教育と総合教育」、「地域性と国際性」のそれぞれの共存を謳っている。それに基づき、平成21年において、衛藤卓也現学長は、地域貢献と国際化の拠点を目指す「マグネット・ユニバーシティ構想」を掲げた。構想の取り組みとして、①地域社会の将来を担い、地域に寄与する人材を育て輩出すること、②教育・医療機能を地域性に配慮しながら強化し、地域責任を果たすこと、③地域内における産学官や大学間連携、高大連携を強化し充実させること、④福岡大学学生や教職員による実践的活動を展開させること、⑤地域の人々が人生設計を構築し、地域の活性化に寄与するため、生涯にわたって教育を受ける機会があること、⑥地域の人々の誰もが利用でき、コミュニケーションを取ること交流の場が整備されること、など地域に貢献する大学として存在感を強めるための方策が掲げられている。すなわち、小・中・高校生から社会人、地域住民、同窓生まで多様な人々の成長に貢献できる、裾野の広い教育プログラムを整備すること、また福岡大学を地域の一大教養センターへと発展させることを目指している。

それらの一連の取り組みのもと、平成21年7月、大学と財団法人福岡県スポーツ振興公社は「福岡大学と福岡県スポーツ振興公社との連携

協力協定」を結んだ。これは、スポーツ科学、医学、薬学の学部・大学院をはじめ二つの大学病院を有する福岡大学が、福岡県スポーツ振興公社が実施している各種のスポーツ振興事業にスポーツ医科学の成果と人材を提供し、県民のスポーツ活動を日常化、活性化するとともに競技力向上、子どもたちの体力向上に寄与することをねらいとしている。スポーツ科学部はこの協力協定に積極的に参画し、特に7年前から福岡県が実施している「福岡県タレント発掘事業」においては、深い関わりを持ちつつ現在に至っている。指導者の派遣や測定の補助、タレント評価に関する情報提供などを行う他、セレクトプログラムでは50名の学生がサポートに参加したり、大学の施設を提供した育成プログラムの実施の実績もあげている。

現在は、学生の教育は大学内だけで行うという時代は終わり、社会や地域といっしょになって学生を育てていくこと、すなわち実践教育が重要になってきている。福岡大学では各学部としてマグネット・ユニバーシティ構想を推進するとともに、地域や産官学連携のための組織として、公開講座などを担当する「エクステンションセンター」、「地域に開かれた大学づくり」、「大学を核としたまちづくり」を目指して活動する「地域ネット推進センター」、ビジネスモデル構築の実現に向けた産学官連携を進めていくための「産官学連携センター」があり、活発な活動が展開されている。本学の取り組みは、大学の使命である地域貢献を果たすだけでなく、結果として学生の教育にフィードバックされ、幅広い角度からの人間教育に繋がっていく重要な取り組みであると考えている。

